

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年10月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071801213
法人名	社会福祉法人 光綾会
事業所名	グループホーム 陽楽
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市庄司1020番地1 (電話) 0948-25-7200
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年8月1日

## 【情報提供票より】(平成21年6月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.8人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	新築 <u>改築</u>
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~37,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( 円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成21年6月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	潁田医院、筑豊病院、みかも歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

筑豊の炭鉱王といわれた伊藤伝右衛門邸の北部に位置する大きな古民家調のホームである。法人オーナーの自宅であったが、地域の人達の為に役に立ちたいと増改築し、グループホームを開設している。昔の面影を残した大きな梁や欄間が美しく、ゆったりとした間取りで皆がのびのびと暮らしている。ホームのあちこちで楽しそうに語らう姿が見受けられ、落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごせるよう支援している。スタッフは常に向上心を持って仕事に取り組み、「利用者主体・人格尊重・自立支援」の実現を目指し、日々の介護にあたっている。管理者は、「スタッフのまとまりが自慢です」と自負されている。運営推進会議の意見をもとに、ホームで暮らす利用者9名を一世帯として正式に町内会に加入させてもらう等、地域との関係を強化している。まさにグループホームの基本方針である、家庭的な環境と地域住民との交流を図っており、今後も大いに期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、重度化や終末期に向けたホームの方針について話し合っている。当面は関連施設で対応することとしているが、本人や家族の強い希望があれば、将来的には取り組みたいと考えている。終末期の介護に向け、看護師の雇用を含めた職員体制の見直し等課題もある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	学習会を通して全ての職員は、自己評価や外部評価を行なう目的や評価結果をどのように活用していくかを十分理解している。今回の自己評価は、職員で意見を出し合い管理者が一つにまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者とその家族、町内会長、地域包括支援センターの職員、法人役員、職員が参加している。出席者に積極的に会議に参加してもらえよう偶数月の第3金曜日に開催するよう予め決めている。出席者の意見をもとに、ホームで暮らす利用者9名を一世帯として正式に町内会に加入させてもらった。利用者と職員と一緒に地域の作業や出事に参加したり床下消毒に来てもらったりと、地域との交流が以前にも増して深まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	2ヶ月に1回家族会を開催し、暮らしぶり等を報告するとともに、意見や要望を言って頂くよう取り組んでいる。訪問の時には、積極的に家族と会話し、会話の中から聴き出す努力をしている。また玄関に意見箱を設置したり、ポスターを貼る等して、外部にも苦情を寄せることが出来る旨を説明している。外部の相談先である第三者委員の設置や介護相談員を毎月受け入れる等、より良いホームを目指し全職員で取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年町内会に加入したことで地域との交流が更に深まっている。地域の一人として公民館や分校跡地の草取りに利用者と職員が参加し、共に汗を流している。近隣の方とは散歩の途中で挨拶を交わし、交流を深め、花の種を分けて頂く約束をする等、拡がりが出ている。また月に1回公民館で開催される「いきいきサロン」へ利用者4名と職員が参加し、地域の高齢者の方々とも交流を深めている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念をもとに職員みんなで話し合い、「住み慣れた地域で家庭的な環境のもと、日常生活の介護を通して安心と尊厳のある生活を営むことを支援します。」とグループホーム独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の職員会議で法人の理念とグループホームの理念を唱和しており、すべての職員が理念の中身を知っている。利用者一人ひとりがその人らしく安心して過ごして頂けるよう、日々のサービス提供場面の中で理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年、町内会に加入したことで地域との交流が更に深まっている。地域の一員として公民館や分校跡地の草取りに利用者と職員が参加し、共に汗を流している。近隣の方とは散歩の途中に挨拶を交わし、交流を深め花の種を分けて頂く約束をする等広がりが出ている。また、月に1回公民館で開催される「いきいきサロン」へ利用者4名と職員が参加し、地域の高齢者の方々とも交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	学習会を通して全ての職員は、自己評価や外部評価を行なう目的や評価結果をどのように活用していくかを十分理解している。前回の評価を受け、重度化や終末期に向けた今後のホームの方針について話し合う等サービスの向上に取り組んでいる。今回の自己評価は、職員で意見を出し合い、管理者が一つにまとめあげた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者とその家族、町内会長、地域包括支援センターの職員、法人役員、職員が参加している。出席者に積極的に会議に参加してもらえるよう偶数月の第3金曜日に開催するよう決められている。出席者の意見をもとに、ホームで暮らす利用者9名を一世帯として正式に町内会に加入している。利用者と職員と一緒に地域の出事に参加したり、床下消毒に来てもらったりと、地域との交流が更に深まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者から空き状況の問い合わせがあったり、ホームからも必要に応じて、市の担当者と相談等できる関係が出来ており、市と連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護制度の利用者はいない。職員は外部研修や毎月の学習会で制度について理解を深めている。ホームに制度についてのパンフレットは置かれていないが、利用者や家族に対しては、入居時に説明したり家族会やホーム便りに取り上げる等して情報提供を行っている。過去に制度利用の橋渡しを行った実績がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、陽楽より「ひまわり」を発行し、家族に利用料金と共に郵送している。たよりに、今月と次月の行事、家族の方へ行事参加の呼びかけ等、記載されている。家族会でも暮らしぶりや職員の異動など随時報告しており、その都度必要に応じて電話や郵送等で積極的な情報提供を行っている。金銭管理については、家族の確認印がなく領収書の控えが保管されていない。	○	金銭管理については、領収書をコピーする等して事業所でも保管する事が望まれるが、出納帳に家族の確認欄を設けるか、枠外にサインを記入して貰う等して、確認して頂いた事が分かる事が望まれる。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、家族会を実施し、意見や要望を言うて頂くような機会を設けている。日頃から訪問の時に会話の中で聴き出す努力を職員全員で行っている。玄関に意見箱を設置したり、ポスターを貼るなどして、外部にも苦情を寄せることができる旨を説明している。外部の相談先である第三者委員の設置や介護相談員を受け入れる等している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には異動は行わないことにしている。離職者を抑えるため、連続して取れるフレッシュ休暇や慰安旅行や親睦会を企画し、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。やむを得ず変わる場合は、従来と変わらない介護を目指し、利用者へのダメージを抑えるよう全職員で取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在、20歳代から50歳代の職員が働いており、職員の募集や採用にあたっては、年齢や性別を理由に採用対象から外すようなことはしていない。管理者は職員の得意分野を業務に発揮できるよう、習字や踊りの指導、広報誌作り等の係りを担当してもらっている。また、国家資格合格者には祝い金や資格手当も導入している。4日連続したりフレッシュ休暇も取れる働きやすい職場環境に取り組んでいる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修に参加したり、内部研修を行う等、人権教育に取り組んでいる。利用者に対する人権を尊重するため、職員に対し日頃から態度や言葉使いに注意し介護にあたる様指導している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場や経験、習熟度に応じて外部研修に参加させる体制をとっている。伝達研修を行う等、研修内容を共有するようにしている。また法人内の研修には積極的に参加するよう勧めている。日々の介護の中で管理者は、その都度、助言指導を行いながら職員の育成に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホームの研修会に参加したことを機に、飯塚地区の5つのグループホームのネットワーク作りに取り組み始めたところである。まずはお互いの施設を見学し、交流を図ることで施設のレベルアップを目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始にあたっては、本人や家族に見学を勧め、十分納得の上で利用して頂くようにしている。また住まいが変わることや知らない人の中で生活していくことへの不安や心細さを理解し、職員が上手に関わりスムーズに馴染んで頂けるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者で過ごす中で、人としての生き方や考え方を教えてもらうことがある。夫が先立ち落ち込んでいた時、「あんたがちゃんとしっかりせいかん」と利用者から励まされ、元気をもらった職員もいる。また掃除や料理のコツ、ことわざや四文字熟語等教えて頂く場面を積極的に作るなど、共に寄り添い支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始にあたり身体状況、医療、家族状況等の情報とともに、これまでどのような暮らしかたをしていたかを、日々のかかわりの中で希望や要望を伺い、思いや意向の把握に努めている。思いをうまく伝えられない方には、利用者本位のケアが行えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの希望に沿うよう本人、家族、主治医等と話し合い、要望や意見を汲みとり、個々の課題となることを関係スタッフと検討し、利用者本位の介護計画を作成し、全職員でのケアに取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果等を評価し、基本的には3か月ごとに介護計画の見直しを行っている、利用者の状態に変化が生じた場合は、本人、家族、及び必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、受診の送迎、入院時の見舞い、洗たく物の持ち帰り、地域行事への参加のための送迎等に柔軟に対応している、また、家族等の宿泊に備え、宿泊の受け入れ態勢を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じ、それぞれの、かかりつけ医の受診ができるよう医療機関との連携を図り、家族の協力を得て、利用者の身体状況に応じた適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化した場合には、関連施設に入所してもらっている。ぎりぎりまでホームで過ごさせたいという家族の要望もあり、将来的には、終末ケアを視野に入れることを考えている。	○	入居時、あるいは重度化する前に本人や家族等と話し合い、本人や家族の意向を把握した上で、グループホームの今後の方針について検討されることがのぞまれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員、利用者に対する「人格の尊重」を基に、言葉かけに気を配り、常に傾聴する姿勢を心がけている。個人情報の取り扱いは十分に配慮し、記録などの書類は、職員室で管理されている。雇用契約時に職員から個人情報保護に関しての誓約書をとっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴など日常生活の流れはあるが、利用者の意思や体調を最優先に考え、一人ひとりの生活時間にあわせて個別に対応している。夕食後は、リビングでテレビを見る人がいたり、自分の部屋に戻って、ゆったりと休む人がいたり、自由に過ごしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を取り入れ、栄養士の意見を聞いて献立を作成している。自家菜園でとれたトマトやゴーヤ等、季節の食材を使用している。糖分調整の必要な方には個別に対応している。静かな音楽を聴きながら、利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事をしている。食材の下処理やテーブル拭き等、個々人の対応能力に応じて、職員と共に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除いて、毎日、午後の入浴としているが、体調に配慮しながら本人の希望に合わせて対応している。順番等、個々の相性も考え、利用者が気持ちよく入浴できるようにしている。入浴をおっくうがる方には、声かけに工夫しながら、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴や趣味を把握しており、習字、畑仕事、花の手入れ、洗たく物たたみ等、日々生活の中で利用者に合わせて役割支援をしている。また、季節毎の花見、催しごとの見学を行って、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出かける楽しみの重要性を職員は認識しており、天候や本人の体調に配慮しながら、ドライブや買い物、毎日の散歩、近隣のお宅訪問等、日常的に外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、夜間のみ鍵を使用している。最寄の警察や近隣の方々は、日々の親密な交流で、ホームの存在は周知されており、自然体で利用者の見守りの協力が得られている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導のもと、昼、夜を想定し、定期的に避難訓練を実施している。自衛消防隊の組織図、緊急連絡網を作成し掲示している。消火器、通報装置の設置場所及び避難場所を職員は認識している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの日常の運動量や身体状況に合わせ摂取量を定めており、摂取した食事や水分の概ねの量を記録している。特に起床後、入浴、外出の後の水分補給に気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビング等、ホーム内は、明るく広々として天井も高く快適である。リビングにはソファ、廊下には椅子を配置し、壁には掛け時計や季節の絵が飾られ、家庭の雰囲気がある。浴室、トイレは衛生面に留意し、清潔で、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>在宅時からの使い慣れた寝具、家具、身の回りの調度品、家族の写真等、馴染みの物品が持ち込まれ、個性的で居心地の良い居室となっている。</p>		